

平成28年度 弘前市総合計画審議会議事概要（第4回）

ひとづくり・くらしづくり分科会

日 時	平成28年8月25日（木） 18時00分～20時30分		
場 所	弘前市役所新庁舎 3階 防災会議室	傍聴者	0人
出席者	委員 (11人)	村松座長、生島委員、阿部委員、西舘委員、中村委員、清野(眞)委員、清野(智)委員、米塚委員、青山委員、名越委員、三上委員	
	事務局 (4人)	ひろさき未来戦略研究センター副所長、ひろさき未来戦略研究センター総括主幹、ひろさき未来戦略研究センター主事	
	その他	教育センター	

会 議 概 要

1 開会

2 議事

(1) 二次評価案について【ひとづくり】

○主な提言等の内容は以下のとおり。

①施策名：多様な母子保健サービス

- ・5歳児発達健康診査の実施については評価できる。出産・育児に課題を抱える母親や子供の健全な発達に関する施策は息の長い取り組みになるが、しっかりと目を向けて取り組んでほしい。

②施策名：婚活の応援

- ・婚活の応援について、行政で支援を拡充していくことで、個人によっては結婚や出産を重圧と感ずる場合もあるのではないかと。

⇒拡充部分について、来年度から定住自立圏の枠組みで実施することを予定していることから拡充と判断している。また、利用者によっては、このような施策を必要としている方も一定程度いることから、個々人の事情には十分に配慮しながら、取り組みを進めていくこととしたい。

- ・弘前の若者の働き方に関する統計データ（正規・非正規や所得など）を分析したうえで、政策を打ち出すべき。

③施策名：保育サービス・幼児教育の充実

- ・保育施設では面積に余裕があれば児童を受け入れられるので、市で入所条件を見直すことによって保護者の支援につながる。

④施策名：経済的支援の充実

- ・子育て世代からの具体的なニーズや現状に関する分析が見えてこない。効果のある支援を行い、結婚・育児に対する負担感のイメージが少なくなれば、結婚する意欲の向上にもつながる。もっと具体的に細かい部分からの意見・要望なども吸い上げ、現状をしっかりと把握した上で、経済支援策に取り組む必要がある。
- ・子育てなどの社会的に必要不可欠なものについては、まず、基本的なニーズを充足させるということが重要。財源ありきで考えるのではなく、基本的ニーズの充足を先に考えるべきである。

⑤施策名：様々な環境にある子どもや子育て家庭への支援の充実

○事務局からの二次評価案の説明に対する意見等なし。

⑥施策名：豊かな心を育成する教育活動の充実

- ・子供の問題は子供のうちに解決しなければ、子どもが親になった時にその子供にまで問題がつながることもある。課題が小さい子供のうちに、学校・地域・親などで解決してあげる必要がある。

⑦施策名：健やかな体を育成する教育活動の充実

- ・学校教育だけの問題ではなく、親に対する健康教育として健康づくり推進課との連携、家庭での教育、さらには保護者・先生・PTA などによる地域の学びや情報交換などの活動をどのように活発にするかなど、広く連携して取り組む必要がある。

⑧施策名：よくわかる授業づくりの推進

- ・教員の多忙による負担感の軽減をしっかりと考慮し取り組んでほしい。

⑨施策名：時代に対応する教育の推進

- ・英語教育に関して、会話重視で政策が進められているが、会話だけでなく基礎的な「読み・書き」も重要であるということ認識し取り組む必要がある。
- ・英語だけでなく、他の教科でも ALT を派遣するなど、様々な場面での ALT を活用することを期待したい。
- ・将来的に、外国人児童生徒や帰国子女に対する日本語指導の拠点となるような場所が必要になってくるのではないかと考えられるので、早い段階から検討する必要がある。
- ・選挙権が 18 歳以上に引き下げられたところであるが、主権者教育に関する取り組みが全く見られないので、経営計画の改訂の際には新たに盛り込むことが必要である。

⇒教育振興基本計画と連動しているので、どこに位置付けるのがよいのか教育委員会と協議する。

⑩施策名：生きる力を育む地域活動の支援

- ・郷土、地域に対する取り組みについては、参加する子どもにとって魅力ある事業、取り組みを考えるべき。
- ・子ども会の活動にしても、地区によって活動内容に大きな差があるというのが現状であり、子ども会を支える大人の人材確保に対する取り組みも必要である。

⑪施策名：社会教育施設等の整備と効果的な運営

- ・社会教育施設については、ファシリティマネジメントなど経営的な施設管理の考え方だけではなく、社会教育施設という性格を十分考慮した運営が必要である。

⑫施策名：生涯学習社会を目指す多様な学習機会の創出と提供

- ・事業を数多く実施したことだけが実績と見え、どのように施策を展開するか見えない。指導者の養成など事業の内実を考慮した取り組みの充実を図るべき。また、事業数も多いため縮小して中身を充実させることが必要であり、施策の目的に合った指標の設定も必要である。

⑬施策名：スポーツ・レクリエーション活動の推進

- ・現在のスポーツ少年団は親の負担が大きすぎるため、子どもたちが活動するため助け合う環境づくりを構築するなど、スポーツ少年団への対策について再度見直す必要がある。
- ・スポーツしやすい環境をつくり、スポーツ人口のすそ野を広げ、地域から一流選手を輩出するような方向に資源を投入すべき。
- ・コーチなどスポーツに関わる「人」や、施設を使える「環境」を整えることに対する具体的な対策を打ち出して拡充とすべき。

⑭施策名：文化・芸術活動の推進

- ・弘前には、オペラやバレエなど高い評価を受けている芸術団体もあることから、縮小ではなく、スポーツ活動と合わせて拡充していくべきではないか。

II 「子どもの学び」全般

- ・「教育指導員」や「ICT支援員」などの役職が増えているが、実態として、雇用面で非常に不安定であったり、権限なども曖昧であったりするので、単に配置するだけでなく、効果的に機能するような仕組みづくりも重要である。
- ・子どもの学びだけでなく、大人も一緒に学べる環境づくりが必要。例えば、まんじ学についても、子どもだけでなく、大人にこそ必要だと思われる。
- ・「Ⅲ多様な学び」にある文化活動を活発にするような関わりを同時に考えながら子どもの学びに係る取り組みを考えていくべき。